

第14回 広島湾研究集会
アマモ場の保全・再生へ向けての先進的な取り組み

共 催：水産海洋学会，産業技術総合研究所中国センター，（独）水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所，広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター，広島大学大学院生物圏科学研究科・流域圏環境再生プロジェクト研究センター

日 時：2013年12月20日（金）13:00-17:00

場 所：広島県情報プラザ多目的ホール（広島市中区千田町三丁目7-47 TEL 082-240-7700）

コンビーナー：谷本照己（産総研中国セ），寺脇利信（瀬戸内水研），相田 聡（広島総研水海技セ），山本民次（広大院生物圏科学）

挨拶：和田時夫（水産海洋学会長） 13:00-13:05

趣旨説明：谷本照己（産総研中国セ） 13:05-13:10

座長：相田 聡（広島総研水海技セ）

基調講演

里海づくりとアマモ場再生のための新たな連携と枠組みの可能性
松田 治（広島大学名誉教授） 13:10-13:50

話 題

1. アマモが生きるための戦略
阿部真比古（水大校生物生産） 13:50-14:15

2. 海の「ゆりかご」藻場の機能および経済価値評価の試み
～あなたは生態系にいくら支払いますか？～
小路 淳（広大院生物圏科学） 14:15-14:40

3. 沿岸漁業を支えるアマモ場 ～藻場だけ見てもわからない藻場の重要性～
吉田吾郎（瀬戸内水研） 14:40-15:05
— 休 憩 — 15:05-15:15

座長：寺脇利信（瀬戸内水研）

4. アマモ場を基点とする漁場環境整備と順応的管理について
岡崎知治（岡山県農林水産部水産課） 15:15-15:40

5. アマモ苗床シートの活用について
相田 聡（広島総研水海技セ） 15:40-16:05

6. 里海としてのアマモ場の保全・利用について
谷本照己（産総研中国セ） 16:05-16:30

総合討論 16:30-16:55

座長：山本民次（広大院生物圏科学）

開催趣旨：海産植物の群落であるアマモ場は，瀬戸内海中央部や広島湾の沿岸海域において，環境・生態系としての，また，水産資源の涵養の場としての藻場の主体をなしている．アマモ場の保全・再生に係る取り組みについては継続性を必要とすることから，地域づくりや地域における水産業を含む産業活性化の方策との連携の許における実践が，きわめて重要になってきている．しかし，これらの連携関係の構築および実践に有益な相互の情報共有や理解の促進は，広島湾に関しても必ずしも十分とは言えない．そこで，里海づくりに位置づけたアマモ場再生の可能性についての基調講演に続き，アマモが生きる戦略，および，アマモ場の生態系サービスと経済価値について，さらに，藻場外での実態まで知ることで見えてくるアマモ場の重要性等を概観する．後半では，アマモ場を含む漁場環境整備への行政からの取り組みの紹介に続き，アマモを育てる技術とその活用法の最新情報に加えて，里海としてのアマモ場の保全・利用の観点からの現状を紹介する．これらを通じて，環境保全と地域づくりに関わり活動する個人・組織の間の相互理解に基づく今後の有益な連携の方向や姿を模索する．